

事務局提案

菊間地区学校適正配置地元代表協議会（第 5 回）

教育環境としての統合校①

場所

- ・人口分布から考慮（児童生徒数の分布から場所を検討）
- ・災害リスク 亀岡小は高潮想定区域
菊間小は浸水の深さが浅い
- ・持続可能性（居住誘導区域として集約化）

災害リスクが少ない点や、
将来的な児童分布を考慮すれば
居住誘導区域に近いことが望ましい
中心部にあることが配置上は合理的

統合校
（菊間小学校校舎）

双方に共通する課題

- ・通学距離が延びる場合 スクールバス、JR（列車）
※クラブ活動等遅くなる場合JR（列車）を活用
 - 亀岡➤菊間＝2ルート（バス1～2便、タクシー1便）
 - 菊間➤亀岡＝2ルート（バス3便）

双方ともに課題とならない点

- ・駐車スペース 亀岡小は、近隣グラウンドを利用可能
菊間小は、旧菊間保育所跡地を利用可能（亀岡方面保護者用）

教育環境としての統合校②

子どもたちがたくさんの人と触れ合える（コミュニケーションする）機会が多い環境

学校の在り方

運営上の考え方：地域と連携した学校（多様な人・考えとの交流）

例）夏期の環境整備（学校清掃活動）への住民参加や地域運動会のように、地域住民の参加が盛んであるのは亀岡小学校の運営状況である。

統合校の学校運営として、望ましいのは亀岡地区での取り組み

地域を巻き込んだ学校運営
地域が積極的に準備・運営・片付けを通じて、子どもと触れ合う

これまでの菊間地区の学校への関わり方を変更する取組が必要
（どちらの学校校舎での統合の場合も）

一足飛びには困難な取組
（新しい学校文化として育む）

地域の団体が関わる回数・頻度を増やす

- ・自分の子ども、孫が在籍していなくても、学校での活動を通して住民同士が交流する機会を増やす

教育環境としての統合校③

魅力化・特色化

単学級（1 学年 1 学級）としての活動がメイン

・たくさんの大人との触れ合い（多様な考えとの交流）

これまでの取り組みの再構築
地域の関わり方を工夫する



例）作業よりも対話を重視

提案

菊間町ならではの取り組み

馬を学校で飼うことは施設管理上、不可
（長期休み・休日対応）

●お供馬 ➤ 馬が学校に来る環境
（生き物との関わりを通じた命の教育・文化学習）

ホースセラピー
・岡山理科大学獣医学部
・野間馬保存会
・愛馬会

●太陽石油(株)四国事業所
➤ 世界とつながる今治の象徴
エネルギーから考える社会との関わり

必要なものから考える	作る	触れ合う
馬を係留する設備	準備するもの	生命尊重の心情育成
水場	作業	心の成長・情操の安定
排泄物処理	検査	責任感・自立心の育成
		対話力・社会性の育成

例）事業所のエネルギー拠点・防災・環境配慮企業の
視点から探求テーマを設定

①「私たちの暮らしとエネルギーの未来」
・石油製品が自分たちの生活・産業をどう支えているかを調べる探求
（家庭・学校・町で使われている“石油由来のもの”を探す）
・四国唯一の製油所として、四国4県を支える役割や脱炭素・再エネ時代
に企業がどう変わろうとしているか、事業所担当者へのインタビューや工場見学で考える
（これからのエネルギーとの付き合い方を自分なりに提案させる）

②「防災拠点としての製油所と私たちのまちづくり」
・事業所が、地下石油備蓄基地や地域と連携して防災力向上に取り組んでいることを題材に
「災害に強い菊間のまちづくり」を考える探究【ハザードマップ、製油所、避難所の位置を整理】
・事業所の防災訓練・危機管理の考え方を学びつつ、「小学生として防災アクション」「地域と一緒
にできる防災イベント（例：親子探検ツアー、避難経路マップづくり）を企画・提案する
（総合的な学習の時間の防災分野と接続可能）

探求型学習
のテーマ

教育環境としての統合校④

魅力化・特色化

・立地を生かした取組

提案

●菊間小学校の場合 ➤ 小・中の連携強化

学校運営協議会
(一体化済)

- ・校長が作成する学校運営の基本方針を承認すること
- ・学校運営に関する意見を、教育委員会または校長に述べることもできる
- ・教職員の任用について、教育委員会規則に定める範囲で教育委員会に意見を述べることもできる

●亀岡小学校の場合 ➤ 小・保の連携強化

- ・園児にとっては「小学校生活のイメージが持てる」
- ・小1にとっては「年下への関わり方を学ぶ」機会
- ・「亀岡の子どもはこう育つ」という接続イメージ（園→小）を保護者向けに発信し、安心感と地域への愛着を高める。

例) 9年間を見通した学び

あいさつ運動・人権学習・地域清掃など、すでに菊間中が行っている取組に小学校が参加する。(校種間の情報共有を日常化し、小中一体の教育課程づくりの土台を作る)

例) 学力保障の充実

中学校教員(専科教員)による小学校での授業数拡大(逆も可能)

例) 行事・部活動のシームレス連携

主要学校行事(運動会、文化的行事、人権・防災行事)は、可能なものを同日・同一テーマで実施し、合同化する
部活動は「見学・体験デー」を定期化し、小6が中学校部活動に年数回参加できるしくみをつくり、進学時の不安を軽減する。

例) おかえり集会・こいのぼり集会

毎年5月頃に、亀岡小1年生と保育所の園児と一緒にふれあい遊び・ゲーム・体操などで交流する取組。

例) 田植え・稲刈りの応援

保育所前の田んぼで、亀岡小の児童が米作りをしており、田植えや稲刈りに保育所園児が「応援」という形でかわっている。

例) 11月の合同避難訓練(津波想定)

津波警報発令を想定した合同避難訓練を亀岡小と保育所で実施している。

例) 亀岡地区秋季大運動会(地域合同運動会)

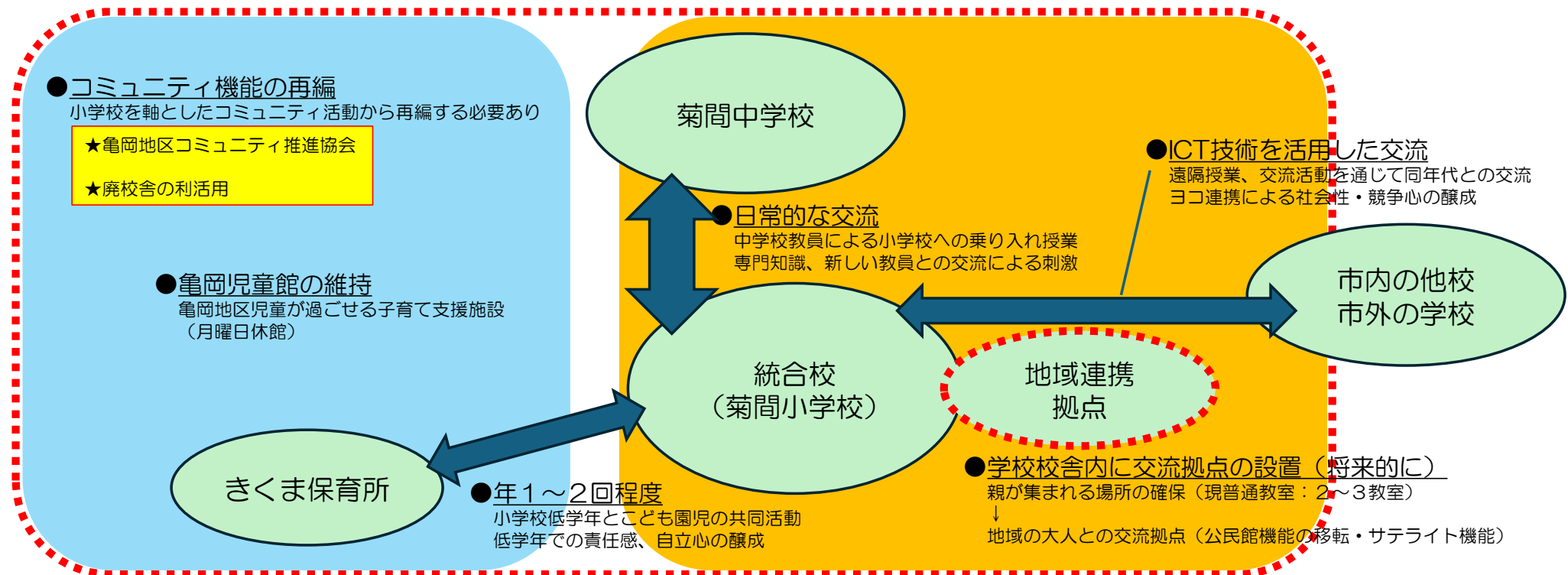
亀岡小児童・亀岡保育所園児・保護者・地域住民が参加し、タテ・ヨコのつながりを育む場

教育環境としての統合校⑤

魅力化・特色化

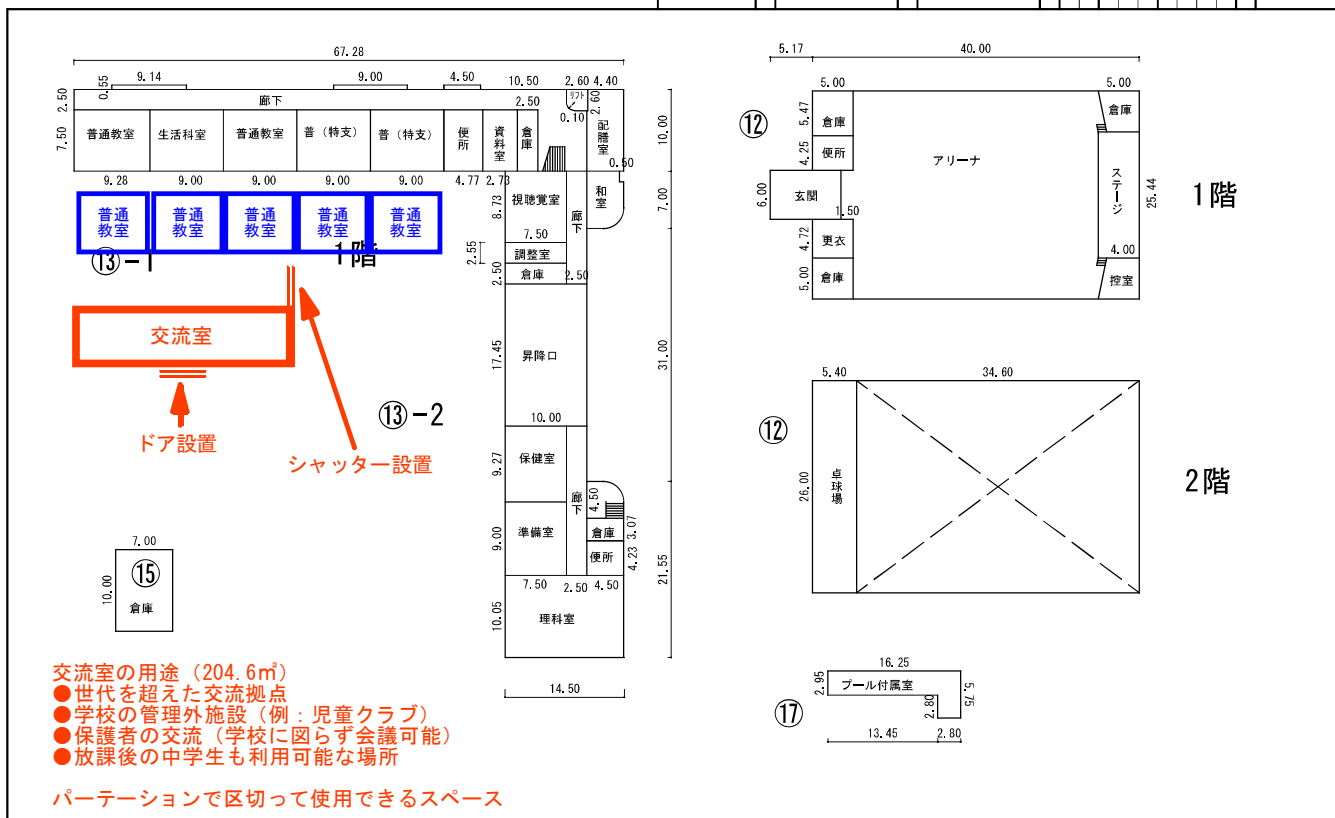
・立地を生かした取組

- ①親の活動拠点→地域拠点を併設することで地域活動との連携強化
- ②小中連携強化による9年間の教育活動



(令和6年度)

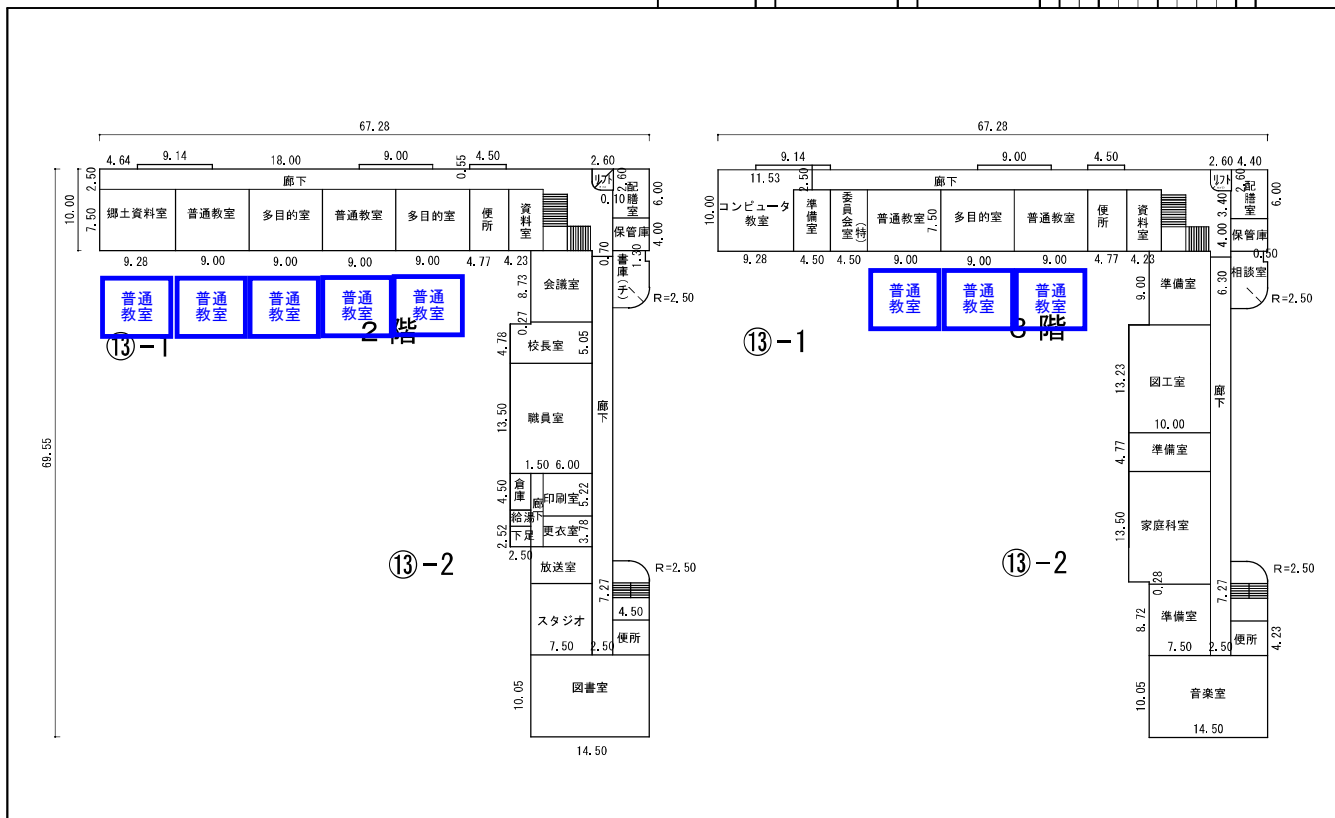
平面図	縮尺	1/600	学校名	菊間小学校	部活動室	3	8	2	0	2	0	2	3	5	1	3	2
-----	----	-------	-----	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---



文部科学省

(令和6年度)

平面図	縮尺	1/600	学校名	菊間小学校	部活動室	3	8	2	0	2	0	2	3	5	1	3	2
-----	----	-------	-----	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---



文部科学省